

# JAM熟練技能継承事業ニュース

発行：2015年5月14日  
JAM熟練技能継承推進室

## 4年間の実績まとまる

### ～第27回中央委員会(5/26)にて「総括」中間報告～

平成23年度から26年度までの4年間の事業実績を纏めると、下表のとおりである。

#### 平成23～26年度累計実績

指導者数	49名
指導先/高校	34校
指導先/企業	9社
指導日数	2,080人日
受講人数	18,324人

技能指導実施先の高校は、埼玉県で12校、岐阜県で10校、大阪府で12校の合計34校で（うち私立は2校、定時制高校は1校）、中小企業は、埼玉県で5社、大阪府で2社、東京都・群馬県・兵庫県でそれぞれ1社、合計10社で、うち埼玉県の3社については㈱ボッシュの施設・指導者による指導であった。

技能指導にあたっていただいた熟練技能者は、埼玉県で22名、岐阜県で13名、大阪府で11名、東京都・群馬県・兵庫県でそれぞれ1名（うち東京都は埼玉県と同一者）、合計48名であった。

熟練技能者による指導は、指導派遣先と指導目的別に、高等学校、中小企業、教員研修、情報交換会に大別されるが、それらを合わせた延べ指導日数は2,080人日であり、総受講者数は18,324人にのぼった。

厚生労働省が平成23年から「ものづくり立国推進事業」の新規事業として開始した「業界等が取り組む熟練技能者を活用した技能継承の支援・促進事業」は「業界等が自ら技能継承に取り組む」事が前提とされたことから、機械金属産業に関わる様々な業種・職種の労働組合が加盟するJAMとして労働運動の新たな分野に挑戦することを決断し、受託事業として推進してきた。

事業立ち上げに際し「石にかじりついても3年間は継続する」としてきた中、厚生労働省が2013年度（平成25年度）から開始した「若年技能者人材育成支援等事業」が、JAMの「熟練技能継承事業」をほぼカバーする見通しが立ったこと、「熟練技能継承事業」は厚生労働省の委託費用だけではまかないきれず、少なからずJAMの組合費を活用していた事等を踏まえ、4年目の事業を完了させた時点で終息する事とした。

JAMとして、これまで4年間の事業を振り返りつつ、今後産業別労働組合として技能伝承に関しどのような取り組みを行うかを考察し、JAM「熟練技能継承事業」の総括を取り纏めて2016年度定期大会で報告するが、それに先立ち、5月26日に開催する第27回中央委員会で中間報告を行なう。